

第6学年 国語科学習指導案

2組 計19人 (男子6人, 女子13人)

指導者 橋口 盛文

1 単元 「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」

(教材「平和のとりでを築く」 光村6年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、教材「生き物はつながりの中に」の文章構成や文末表現、重要語句等を手がかりに、筆者の考えをとらえる学習をしてきた。また、そこでの学習を通して自分なりの考えをもち、意見を交流し合えるようになってきている。

そこで、これまでの学習を生かしながら、筆者の事実と意見の述べ方の違いに気付くと共に、筆者の論理的な文章構成について分析し、自分の考えを明確にしながら読むことと、他者へ情報を発信することをねらいとした単元を設定した。

教材「平和のとりでを築く」は、「話題提示 - 説明 - まとめ」の大きく3つのまとまりで構成されている。筆者自身が、語り手「わたし」として登場し、原爆ドームに対する思いを語り出すところから始まり、原子爆弾の投下により廃墟と化した建物が、多くの人々の平和を願う心から世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。この事実を基にした筆者の考えを読み取ることによって、多くの人々が「平和」を希求していることを理解することができる。

本単元で子どもたちは、事実と筆者の思いを区別し、文末表現の違いや重要語句に気を付けながら、文章に書かれたことを正確に読み取り、要旨を正しくとらえることで、筆者の読み手を引き寄せる文章構成の巧みさに気付くことができる。そして、「平和」について自分の考えの根拠となる材料を収集・選択し、それを基に自分の考えを構成し、発信することで、自分の考えを工夫して伝える態度を育てることができる。

ここでの学習は、中学校での読むこと「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」へと発展していく。

(2) 単元の目標

筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】

筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読むことができる。

【読む能力】

自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができる。 【書く能力】

考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方について理解することができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般にかかわる実態

本学級の子どもたちは、教材文を読んだり、友だちと話し合ったりする活動が好きで、学習に対する興味・関心が高い。教材「生き物はつながりの中に」では、キーワードや文末表現、接続語に着目して筆者の主張を読み取ることができた。そこで、要旨と自分の考えを2つのまとまりに分けて、意見文を書くことができるようになってきている。また、発表の場面では、情報収集した資料を活用し、教材文で学んだ表現方法を基に、自分なりに分かりやすく伝えることができるようになってきている。

イ 本単元の内容に関わる実態

事実を基に意見文をまとめることができる。 ア できる 12人 イ 十分にできない 7人
「原爆ドーム」の名称を知っているか。(写真提示から) ア 知っている(正確に) 8人 イ 知らない 11人
戦争からイメージすることは、どんなことか。(イメージした子どもが多かった順) 怖い、殺し合う、悲惨、残酷、平和の反対、死ぬ、失う、争い(醜い)、命、血、空襲、 第2次世界大戦、爆弾(原子)、戦車、B29、銃、兵、どちらかが勝ちそして負ける、 起こしてはならないもの
知っている世界遺産を書きなさい。(知っている子どもが多かった順) 屋久島、万里の長城、マチュピチュ、白神山地、ナスカの地上絵、法隆寺、巖島神社、 知床、原爆ドーム、自由の女神像、メンフィス

前学年までに習得すべき説明的文章の「学び」の手段や方法を知っており、一人学びのできる子どもも多くいる。ただ、文章構成を正しくとらえたり、要旨を基に意見文をまとめたりすることは、これまでの経験が少ないために十分にできるとは言えない。

「戦争」という言葉に対しては、これまでの学習や聞きしたことから「怖い、起こしてはならないもの」など負のイメージを強くもっている。しかし、広島、長崎での被爆など戦争の具体的事実についてはよく知らない子どもたちが多い。

世界遺産については、これまで5年生の社会科や理科の単元で「環境問題」「自然保護」等について、関連した図書やインターネット情報を活用した調べ学習をしてきているため、名称はよく知っている。ただ、具体的な内容や指定された背景などについては、詳しく知らない子どもたちもいる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人の「学び」が生きるように、以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」場面では、教材「生き物はつながりの中に」を説明的文章のプレ教材として取り扱い、文章構成のとらえ方や要旨のまとめ方、意見文の書き方について振り返り、それを本単元に生かすことができるように、要点を整理しまとめたものを教室内に掲示する。そして、それを参考にすることで、いつでも本単元の学習に生かすことができるようにする。また、戦争や世界遺産に関する関連図書を置き、教材文との並行読書をさせたり、参考にしよう助言したりすることにより、自分の考えをまとめる参考にできるようにする。

「深める」場面では、戦争当時の歴史年表や原爆に関する資料を学習場面で提示することにより、本文に出てくる事物や事象を具体的にイメージしながら読み深めることができるようにする。原爆ドームが世界遺産に指定されるまでの過程や筆者の思いをまとめることができるワークシートの工夫をし、常に筆者の述べたいことを意識しながら自分の考えをもつことができるようにする。そして、なかなか一人学びで自信がもてない子どものために、お互いの考えを交流する場を設定することで、手がかりとなる言葉や文に気付くことができるようにする。

「味わう・高める」場面では、子どもたちが要点を文や絵、図でまとめたものや文章構成図などを基に、筆者の考えに対して自分なりの意見をもてるようにする。また、意見文がなかなか書けない子どもには、大事な言葉や文を書いたカードを提示したり、参考となる意見文を紹介したりして参考になるようにする。

「まとめる・広げる」場面では、関連図書一覧やインターネットでの検索機能などを使うことで、平和に関する情報を集め、自分で設定したテーマに迫りグループで話し合うことができるようにする。また、校区内の戦争を体験された方々を交えた意見交流会の活動ができるようにする。

4 指導計画(全15時間)

は研究の視点に関する内容

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 説明的文章の学習内容と学び方を想起する。	<p>プレ教材「生き物はつながりの中に」を通して、説明文の学習方法や学習内容を振り返り、本単元の学習に生かせるようにする。</p> <p>平和について関心をもって読んだり、話し合ったりしようとしているか。</p> <p>(発表・観察) 【国語への関心・意欲・態度】</p>
		<p>2 全文を読み、題名と段落から読みの課題をとらえる。</p> <p>学習計画を立てる。</p> <p>難語句の意味を調べる。</p> <p>「わたしの考える平和のとりで」意見交流会をしよう。</p>	
深める	5 (本 時 5 / 5)	3 「原爆ドーム」がたどった歴史についてまとめる。	<p>町内会の方を交えた意見交流会を実施する活動を提案し、読みの目的がもてるようにする。</p> <p>子ども一人一人の実態に応じたワークシートの工夫を図ることにより、原爆による被害の様子、人々の動きや変化を読み取ることができるようにする。</p> <p>歴史的事実に関する動画や画像、グラフなどの具体物を提示することで、時代や戦争の背景をとらえることができるようにする。</p> <p>少女の日記を紹介することで、原爆ドームが永久保存になったことをより具体的に感じ取ることができるようにする。</p> <p>文章を読み深めることを苦手としている子どもが、とりでをイメージしやすいように、絵や図に表現する活動を取り入れる。</p> <p>事実を確かめながら筆者の考えをまとめ、自分の考えを明確にしながら読むことができたか。</p> <p>(ワークシート・発表) 【読む能力】</p>
		(1) ~ 段落	
		(2) ~ 段落	
味高 わめ うる	4	4 筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめ、交流する。	<p>参考教材「原爆の火」と読み比べることで、筆者の考えをより具体的にまとめることができるようにする。</p> <p>友だちの意見文に対して、心を動かされた言葉や文、よりよい文にするための助言をお互いに書いて貼り、交換することにより、たくさんの意見交流が図られるようにする。</p> <p>自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができたか。(ワークシート)【書く能力】</p>
		5 自分の伝えたいテーマについて調べる。	
ま広 とげ める	4	6 意見文を書く。 意見文を推敲する。	<p>事実と意見文を色分けしたカードに書けるように準備しておき、並べ替えの操作をすることで、簡単な文章構成図をつくることができるようにする。</p> <p>考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方について理解することができる。</p> <p>(発表・ワークシート)【言語についての知識・理解・技能】</p>
		7 意見交流会を行う。	
		8 学習の振り返りをする	

5 本 時 (7 / 15)

(1) 目 標 文章構成や中心となる言葉に着目し，筆者が読者に伝えたいことについて読み取ることができる。

(2) 展 開

教師の言葉かけ

予想される子どもの反応

重点評価項目

は個に応じた指導

過程(分)	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
つかむ (5)	<p>1 本時の学習内容を確認する。 ・筆者の伝えたいことについてまとめる学習だったな。</p> <p>2 学習課題を確認する。 筆者は、わたしたちに何を伝えたいのだろうか。</p> <p>3 学習の進め方について確認する。 ・本時の学習の中心となる部分を音読する。 ・中心となる言葉や文に線を引き，筆者の伝えたいことをまとめる。 ・まとめたことについてみんなで話し合う。</p>	<p>教室内に掲示してある学習計画表を基に，本時の学習内容について確認ができるようにする。 全文を読んで筆者の伝えたいことをまとめる活動が量的に難しい子どももいるので，前時までの学習で事実と筆者の考えを色分けしたワークシート（全文を見渡せる一枚）を活用できるようにする。</p>
深め (25)	<p>4 筆者の伝えたいことをまとめる。 ・色分けしたワークシートを基に，筆者がもっとも言いたいことが現れている部分に線を引く。 ・線を引いた部分を基に，自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>5 筆者の伝えたいことについてみんなで話し合う。 どうしてそのようにまとめたのですか。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・「平和のとりで」と言う言葉が大切だ。 ・筆者の伝えたいことは本文の後半に書いてあることが多いから。 ・題名には筆者の強い思いが現れている言葉だよ。 ・「～である」「～なのだ」の文末表現に筆者の考えが強く表われるから。</p> </div>	<p>中心となる言葉を空白に入れると，筆者の伝えようとしていることが，まとめられるワークシートを活用させることで，一人学びを苦手としている子どもの解決の糸口とする。 プレ教材と比較することで，どこに筆者の伝えたいことが書かれることが多かったか，また，どんな言葉や文に着目すれば良かったかを想起させるよにする。 指示語や一つ一つの言葉を確認させることで，筆者の伝えようとしているをより明確にできるようにする。</p>
高味めわ るう (8)	<p>6 題名について話し合う。 「平和のとりでを築くとは」とはどういうことだろうか。 とりでとは何ですか。 築くとは，どういうことか。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・大切なものを守る。 ・土台からしっかりとつくるということ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・つまり，人の心に平和を守る思いをつくっていくこと。</p> </div>	<p>プレ教材での学習を振り返ることで，題名に筆者の強い思いが表れていることを想起できるようにする。 文章構成や重要語句に着目し，筆者が読者に伝えたいことについて読み取ることができたか。（ノート，ワークシート）【読むこと】</p>
まとめ (7)	<p>7 本時の学習をまとめる。 原爆ドームは後世まで，それを見る世界中の人々の心に核兵器の使用禁止，さらには戦争を許さず，平和を守っていく強い意志を築くための遺産なのである。</p> <p>8 本時のまとめを付け加えて，文章構成図を完成させる。</p> <p>9 学習を振り返って音読する。</p> <p>10 次時の学習を確認する。</p>	<p>各自のまとめた文章を事実と筆者の考えを色分けしたワークシートで再確認させ，本文全体の言葉を使って，まとめることが大切であることを助言する。 前時までにまとめた文章構成図を提示し，本時のまとめを付け加え，全体の概観を完成させることができるようにする。</p>